

10 児童や学校の多様性への対応と ICT の活用

| Let's give it a try! | 解答例 |
|--|--|
| <p>1. 先行研究や自身の経験をもとに学習者要因の中から特に重要だと思うものを選び、具体的にどのように指導に生かしていくべきか考えなさい。</p> | <p>ワーキングメモリ（作業記憶）</p> <p>コミュニケーション活動では、ただ単に暗記したものを伝えるだけでなく、相手にわかりやすく伝わる工夫を考えながら自分の気持ちや考えを互いに伝え合うことが求められる。しかし、言語材料への慣れ親しみが不十分では、児童にとって難易度の高い活動になり、英語表現を言うこと（発話を行うこと）に認知資源の多くが割かれる。その結果、自分や相手の思い（内容）に注意を向けることが難しくなり、ワーキングメモリを十分に運用できなくなってしまう。このようなトレード・オフ効果を避けるために、児童の実態に基づいて、授業実施前に、計画した活動やパフォーマンス課題等の複雑さや難易度を精査することが大切である。</p> |
| <p>2. 外国語活動または外国語科の授業で実施する ICT を活用した言語活動を考え、予想される困難さと対応策についてまとめなさい。</p> | <p>【活動例】 オーディオブックを作成する</p> <p>タブレット端末を用いて、単元を通して学んだ絵本（例『Let's Try!』Unit 9 Who are you?, 『Hi, friends! Plus』 This is ME など）の一場面や、続きとなる新たな場面をグループで考えて録音し、児童の音声が入ったオリジナルのストーリーブック（絵本）を作成する。</p> <p>《予想される困難さ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を操作することに児童の興味が向いてしまい、言語活動が不十分になる。 ・録音に時間がかかる。 ・緊張して思うように発言できない児童もいる。 ・録音後に指導者側に編集作業が伴う。 <p>《対応策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・録音の際にのみ指導者がタブレット端末を使用するようにし、児童が練習する際には使用しない。 ・ALT がいる場合、二手に分かれて録音を行う。各グループ 2 回ずつ録音をさせ、良い方を採用するようにする。 ・パワーポイント（PPT）や iMovie 等を用いて編集ができるが（10 資料 1 参照）、作業の時間がとれない場合、各グループの発表を録画し、クラス全体で鑑賞するようにする。 |